

桃色の桜の具を注ぎこんだまうに、「花枝」が浮かんで、ところは青森・弘前城。外濠を埋め尽くす桜の落葉が降りなす佳景を、本誌前号グラビアのカメラが捉えていた。

には、同じく花枝という演目がある。注目力上の花枝が病気になった。もつとも、巡業日程が迫っていたため、顔かたちがそっくりの提灯屋が代役に抜擢される。相撲を取る必要はなく、土俵入りを含められ引き受けたまではよかつたが……

新が台流してできた注目民進党人材底蔵。そんななか、甘星のごとく登場したのが、她ならぬ山尾代議士だった。匿名の「保育園落ちた日本死ぬ」ブログを待機児童問題として国会で取り上げ、当選2回ながら政調会長に大抜擢。永田町関係者のひとりとして、「岡田代表が選挙の顔として白羽の矢を立てた」と言う通り、「ヤメ検41歳」は、土俵入りの真似事ならぬ清新なイメージを振りまくだけでよかつた。しかしながらその目論見も、本誌の「ガソリン代地球5周分」報道で出ばなをくじかれていたのである。

山尾女史が首飾に垂れる汗もそのままに会見を行なったのは、今月6日のことだった。

問題の会見ではまず、突出する2012年のガソリン代に触れた。収支報告書上は230万円ほどだったものが、実は約430万円にのぼると明かしたのだ。1万円以下の支出は領収書等の添付が不要とはいえ、燃費などを勘案すると、地球1周強を走破する分層に相当する。それから山尾女史は、大量に買って販売した疑惑のあるプリペイド・カードについて、こう続けた。「収支報告書および帳簿に当たったところ、ガソリンのプリペイド・カードが大量購入された事実が存在しない。従って、カードの換金、有権者への配布という事実はないものと考える」

# 「ガソリン代は地球5周分」の嘘と金ミステリー

政調会長「里」の嘘と金ミステリー

本誌が疑問符を突きつけて7日。民進党の山尾志桜里政調会長が会見し、ガソリン代を地球9周分も計上していたと明かした。が、法と証拠に基づかず秘書をワルにし、自身は居座り。検察OGとは思えぬ口物の裏に見えた嘘、そして政治資金のミステリーを追う。

山尾志桜里の経歴や選挙区に関する表

山尾志桜里の経歴や選挙区に関する表

「私と証拠に基づき」とある。少なくとも証拠の呈示なしに犯人扱いするのは、忌憚なく言ってしまう検察OGという意図が露る行為ではないか。

と、秘書の「現金箱」を披露する。よしんばこの実態を雇用主が知らなかったとしたら、改めて言うが元検事の肩書きはいったい何なのか。そればかりか、これらガソリン代に、



ガソリン代は地球9周分! 土俵である

次いで山尾氏が述べたのは電子メールについて。発信元を米国ニュージャージー州とする迷惑なショートメールを愛知県下の自民党市議が受け取ったのは、14年11月のことだった。それは上の写真のように、

新潮社

〈ゲルニカ〉を「消した」のは誰だ？  
名画をめぐる謀略と希望

発売  
たちまち  
増刷!

# 暗幕のゲルニカ

原田マハ



反戦のシンボルにして20世紀を代表する絵画、ピカソの〈ゲルニカ〉。国連本部のロビーに飾られていたこの名画のタブーストリーが、2003年のある日、突然姿を消した——国際謀略アートサスペンス!  
●定価(本体1600円+税)

『楽園のカンヴァス』から4年  
今度はピカソだ!!

「事務所を表示していた」と弁明したが、当時の秘書の携帯電話番号を記載したショートメールも見つかった。

再び選管に聞くと、「事務所の連絡先を表示していたのみでは不十分であり、これも公選法の規定に違反します」

——続けて山尾氏は、選挙区内の瀬戸市にある「さくら館」に関して説明したが、これも物足りなかった。13年3月にできたこの施設では、「さくら館」と称したイベントを開催、歯科医や書家など幅広い層を講師として、地元民を聴衆にそれぞれ招き、飲食を提供している。ときには1人5000円の会費を募って旅行へ出かけることもある。これらは支援者を獲得するための「純粋な政治活動」ゆえに、報告書に計上すべきだと本誌は異議申し立てを行っていた。

これに対して彼女は、「指摘を受けるまで、さくら館が総支部や後援会の事務所であるという認識は欠けていた」と主張したが、さる民選党議員はこう証言する。「さくら館ができる前年12月の総選挙で山尾は落選。その選挙総括では、「瀬戸の票田の重要性」を訴えている。瀬戸で票を伸ばせるか否かが当落の鍵を握っているという見方で、それは仰る通り。さらにそのあと、地元元の幹事会で、瀬戸に拠点が借りられた」とも言っていた。しかも貸してくれたのは当時の後援会長なん

## 「事実関係を確認中」

最後に、新たに浮上した疑惑に言及しよう。それは、14年末の総選挙を前にしたカネの動きである。

「選挙運動費用収支報告書」や山尾氏が長を務める「民主党愛知県第7区総支部」の報告書によれば、

11月21日  
民主党・山尾氏  
政交代付金からの「公認料」500万円

12月1日  
山尾氏・総支部  
「寄附金」500万円

12月1日  
山尾氏・総支部  
「選挙費用」500万円

「一監のように、党から山尾氏へ500万円が振り込まれたのち、資金移動を重ねることで彼女へ遡及している。いや、遡及という表現は正確ではない。つまり、

カネの移動がないのだ。しかるにどうしてこんなことをしたのか。

「山尾さんから総支部へ寄附すること、申請すれば『寄附金控除のための書類』を受け取れる。そしてこれを用いて、所得税を減らすことも可能になるのです」と、これは政治資金に詳しい浦野広明税理士の解説である。

議員歳費を2200万円とする、そこにかかる所得税は約434万円、その場合約266万円、ざつと170万円の税金を浮かすことができる。このシナリオを前提にすれば、

「実際は寄附を行っていないのに控除を受けていたとしたら、脱税が疑われる」(同)

満中の秘書も、この「純金術」にはびっくりだろう。「党から彼女への公認料は非課税で、しかも税金が原資となる政交代付金から支出されている。そのうえ法を熟知する検察出身なので、すから、一段と高いレベルの

「総支部への寄附はよくある手ですが、再び個人に戻すのは不可解。ちよとあの頃は、寄附金の控除については意図が見え見えだから慎重に」といったお達しがあったんですよ」

身内からも出た一連の疑惑を事務所に質すと「たび、現在事実関係を確認中」のひとこと。

さて、冒頭の噂はというと、提灯屋は最後に相撲を取らざるを得なくなる。恐る恐る繰り出した両手の指が相手の鼻と目を突き、先に尻餅をつかせた。サケは、「さすがは提灯屋、張る(断る)手がいい!」

こちらの春の椿事は、会見でボロが出て勇み足か、従って政権追及も腰砕けか、いずれにせよ上院議である。